

6361-22
平成17年4月27日

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成17年度病害虫発生予察注意報第2号について
平成17年度病害虫発生予察注意報第2号を発表したので送付します。

平成17年度病害虫発生予察注意報第2号

平成17年4月27日
宮 崎 県

病害虫名 クワシロカイガラムシ

作物名 茶

1 発生地域 県下全域

2 発生時期 -

3 発生量 やや多

4 注意報の根拠

1) 4月中旬の巡回調査におけるクワシロカイガラムシの発生は、発生面積率53.3% (過去9カ年平均14.8%)、発病株率19.3% (過去9カ年平均7.6%)で、平年に比べやや多い発生であった。(図1)

2) 昨年から引き続き多発生のは場が多く、高い寄生株率の茶園もみられる。

5 防除上の注意

1) 防除はふ化最盛期に行うことが大切である。ふ化幼虫は日が経過するにつれて口吻物質で体を覆うため、適期を失すると薬剤の効果は期待できないので注意する。

2) 防除適期は第1世代では幼虫初発の2週間後、2～3世代では幼虫初発の1週間後である。本年の茶業支場(川南町)でのふ化開始日は4月26日(平年より4日遅い)であり、防除適期は5月8日頃からと思われる。ただし、初発時期は表1のように年次差があり、地域やは場によって防除適期は異なるので、ふ化状況を確認してから薬剤散布を行うことが必要である。

3) この時期における薬剤散布は成木園で10a当たり1,000リットル程度を、噴口を茶株の中に差し込むなどして枝幹に十分かかるように行う。

4) 激発園でふ化最盛期が一番茶後になる場合、中切り更新して防除すると有効である。

- 5) 茶園の周縁部に多く見られる傾向がある。今まで発生を認めていない園においても、茶園を注意してよく観察し、発生を確認した場合は早めに防除対策を講じる。
- 6) 防除薬剤等その他の詳細については、病害虫防除・肥料検査センター、各農業改良普及センター等関係機関に照会すること。また、農薬使用基準を遵守し、危被害防止に努める。

《連絡先》
 病害虫防除・肥料検査センター
 松浦
 TEL：0985-73-6670
 Fax：0985-73-749
 E-mail：matsuura-akira@pref.miyazaki.lg.jp

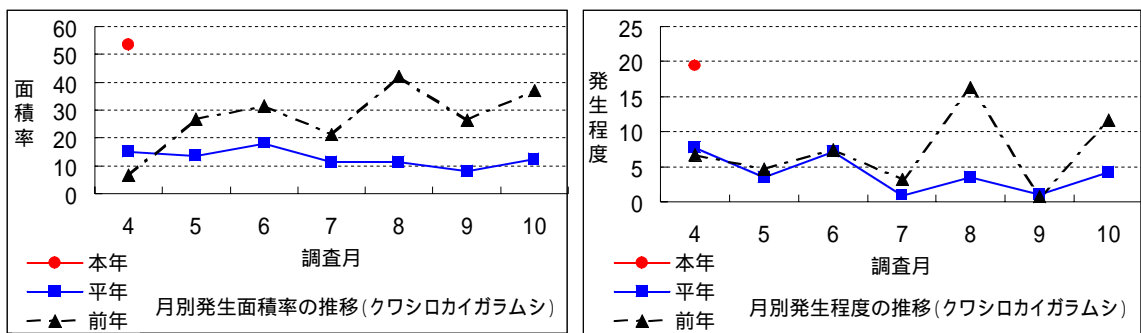


図1 . クワシロカイガラムシの発生状況

表1 . クワシロカイガラムシ初発日

世代 地域	1	2	3	4
串 間	4月下旬	6月下旬	8月下旬	10月上～中 旬
都 城	4月下旬 ～5月上旬	6月下旬 ～7月上旬	8月下旬 ～9月上旬	10月上 ～中旬